

地名を歩く

五十七 手



「手」という地名が残る領家(写真上)、
地頭付近(写真右)



「手」という地名は現在使われていませんが、明治二二年から昭和二五年まで川上郡の自治体名として「手荘村」がありました。それは、領家、地頭、三沢、七地の四か村と臈数の本村、佐々木村の吉木を合併したものでした。その後、昭和二五年から二九年にかけては、前の村名を継承して「手荘町」となりました。いずれも中世の「手荘」に由来した地名でした。

古代には、平安時代の百科辞書「和名類聚抄」(高山寺本)に「下道郡弟翳郷」として書かれていて「訓に亘国用手字」としています。(眞福寺本)には「弟翳郷」として訓に「勢」としてありますが、意味が定かではありません。「弟翳郷」という地名は、「弟」に意味のない「翳」(かげ)の字をつけて用いています。

おそらく、当時は「国郡郷名は好字を用いること」(元明天皇詔)、「続日本紀」が言われていたり、その後「延喜式」(九二七年完成)でも郡里の地名は二字として好字を用いたことから「弟翳」の表現になつているのかも知れません。吉田東伍の「増補 大日本地名辞書」(明治三三年)には、『今手荘村、手荘の大字に領家、地頭あり、山中の小駅とす、「和名抄」に弟翳を「勢」と訓があるのは「亘」の方が正しい』と書いています。この郷名の

の比定地ははっきりしませんが、領家川の下流、中世の「手荘」の範囲で、明治二二年の「手荘村」付近が比定される地域だといわれています。いずれにせよ、古代のころから「手」という地名があつたことは確かなのです。

中世になると「手荘」が成立して、荘園だつたらしく「蔭涼軒目録」(川上町史史料編)の長享元年(一四八七)一〇月二六日の条に「代官妙巖が手荘年貢 二三〇貫文で寺納していたが、彼は高橋兵庫介を下代官として管理させていたが、不作だつた年に二〇〇貫文しか寺納しなかつたため、妙巖は兵庫介を訴え争論が起つて、吉備津神社文書の「流鏑馬料足納帳」(県古文書集)に康正三年(一四五七)丁丑の項に「一貫文手直納三百文」と「手」の地名が書かれ、また「吉備津宮物解文」(「前揚書」)にも河上郡六郷として「手郷朱砂紺青各十兩 犬甘松若丸」と書かれやはり中世の手郷が出てきます。「手荘」という荘園が発生した年代は不明ですが、室町中期以後は相国寺領でした(「日本荘園大辞典」)。また、天正四年(一五七六)には毛利輝元より「手・庄」七〇〇貫文が手之城(国吉城)の城番 口羽春良(通良

次男)に与えられています(「毛利輝元知行宛行状」川上町史)。「手荘」の比定されている領家、地頭は中世の下地中分による地名だろうと考えられています。(拙稿「地名を歩く」四十八「領家」及び十九「地頭」参照)

近世になると領家、地頭、三沢、臈数、大竹、高山、二箇七地、高山市などの村は、それぞれ幕府の支配や成羽山崎氏の支配、松山藩池田氏の支配そして水谷氏の支配を経て成羽山崎氏、撫川戸川氏、布賀水谷氏などそれぞれ村ごとに支配を経て明治を迎えています。明治二三年から「手荘村」となつて、手荘中学校、手荘農林学院などができ、昭和二五年に「手荘町」として六大字をつくり、歴史的な「手荘」の地名を継承してきました。現在は川上町となつて、歴史地名が使われなくなりましたが、「手」という地名は古い地域の歴史を物語る地名なのです。

「手」という地名は「方向」とか「場所」などを表すのによく使われています。接頭語の「た」が転化して「て」に用いられることもよくあるのです。万葉仮名の「た」、「て」にも当てはまるのです。いずれにせよ歴史地名としての「手」の意味は難しい地名の一つなのです。

〔文・松前俊洋さん〕



夏休みに オープンキャンパスに参加しませんか！

吉備国際大学、順正短期大学、順正高等看護専門学校では、今年も6月からオープンキャンパス(学校見学会)を開催しています。大学・短大・専門学校すべてを1日で見学・体験できる充実した内容です。

受験生の皆さんにとっては、将来を決める大事な時期です。大学ではどのようなことを学ぶのか、どういった機器を扱うのか、また就職先についてなど、教授や在学生が詳しく紹介します。いろいろな体験コーナーもありますので、受験を前に学生生活を丸1日体験してみませんか。

もちろん、受験生以外の皆さんの参加も大歓迎です。ぜひ友達や家族と一緒にご参加ください。

- ▷日時 8月2日(日) 午前11時～午後4時
- ▷受付 吉備国際大学、順正短期大学、順正高等看護専門学校の各玄関前
- ▷内容 学部・学科説明、ミニ講義、体験コーナー、施設見学、サークル紹介、学食無料体験、生活相談、入試相談、保護者相談コーナー、AO面接など
- ▷その他 備中高梁駅から無料送迎バスを随時運行(自家用車で来場可)

※事前の申し込みは不要です。会場でアンケートに回答いただいた参加者には、もれなく記念品をプレゼント。



※順正短期大学美容デザイン専攻・メディカルビューティー専攻のオープンキャンパスも、同日午後1時から、岡山キャンパスで開催します。

■問い合わせ・申し込み 高梁学園入試広報室(フリーダイヤル 0120-25-9944)

編集後記

市民の皆さんに、「身近で親しみのある広報紙」を目指して、地域の話題に耳を傾け、足を運ぶようにしています。

その中で、今月から市民のページを拡大し、「学校訪問」と「栄光をたたえます」という2つの新コーナーを始めました。

「学校訪問」は、市内21の小学校を対象に、(その地域ならではの)特色ある学校活動を紹介します。

また、「栄光をたたえます」では、全国大

会出場やそれに準じる成績をあげた個人・団体を紹介していきます。

どちらも、皆さんの活動の励みになるよう努めていきたいと考えています。

楽しい広報紙を作るには皆さんのご協力が欠かせません。情報提供や市民のページへの投稿、広報紙に関するご意見などをお寄せいただき、一緒に楽しい広報紙にしていきたいと思います。(MM)

まちの 伝言板

アユのつかみどり



自然と親しむ会 代表者
谷口雅俊さん(54)

清流高梁川とふるさと川面を、愛し守っていくために始まった「アユのつかみどり大会」が、今年も開催されます。

ふるさとの活性化と高梁川の浄化を呼びかけ、昭和61年に結成された「自然と親しむ会」が毎年行っているもので、今年で24回目。

「事故も問題もなく続けて来ることが地域の心の支えになっています。以前に参加してくれた子どもたちが今では親になって

子どもを連れて参加してくれ、世代を超えた交流にもつながっています。」と代表の谷口さん。当日は河原に池を築き、約3000匹のアユを放します。開始後の30分は中学生以下の子どものつかみ取り、その後、大人にも開放されます。獲ったアユは各自で持ち帰れます。

「参加は無料で駐車場も用意しています。夏の涼と自然とのふれあいを楽しんでください。」

▽日時 8月15日(土)
午前9時～午前11時

▽会場 高梁川秋町河原(高倉町田井)

▽駐車場 川面地域市民センター

1、高梁北中学校など
■問い合わせ 自然と親しむ会
穴田さん(TEL)0637)